

マルメ研修感想

大山貴司

私はさかのぼること 10 数年前に熊谷先生のご講演を拝聴し、徹底したリスクアセスメントとそれに基づく膨大な患者データの集計、そして何より患者利益を追求する信念から発生するその気迫に圧倒され、感動でいつまでも血の気が引かない状態で帰途に就いたことを今でも忘れられない。歯科医療の本質、本来やるべきことを突き付けられ、今自分は何をすればよいのだろうとずっと考えされたものである。しかし、それからなんと 10 年経った昨年にやっと診療室スタッフ皆で OP セミナーに参加し、本格的に動き始めたばかりである。この 10 年間私はいったい何をやってきたのだろう。理由はともあれ、この失われた 10 年を取り戻すべく活動しているのが今の私で、その一つとしてこのマルメ研修への参加となったわけである。

この研修ではとても多くのことを学ばせて頂いた。特にスウェーデンの理想的とも思える歯科医療制度には、国家レベルでここまでできるのかと感銘を受けた。19 歳までは矯正を含む診療が無料で受けられ口腔内環境を整備することができ、将来への良い道筋をつけた後は、個人の責任としてそれぞれが持つリスクにより等級分けされた保険料の支払いになるということはとても合理的である。日本の保険制度のように口腔内の良い人も悪い人も、健康意識の高い人も、低い人もほぼ一律に扱っていくのと違って、徹底して個人のリスク評価を行い、得られた情報を患者とともに分かち合い診療をすすめていく手法は、医療を提供する者の責任と患者の責任の所在がより明確であり本来必要な姿であると思う。医療従事者は可能な限りエビデンスに従い仕組みを作り、患者に説明、施術、定期管理をする姿勢は日本の保険医療では難しい部分であろう。オーラルフィジシャンクリニックとしては、日吉歯科診療所で学ばせて頂いた MTM と、スウェーデンにおける歯科医療制度の内容も加味したものを自院で展開し、日本中へ広めることが責務なのではないだろうか。

エリクソン先生の講義の中で、歯を削って埋めることが治療ではなく、「患者さんの脳を治療するんだよ」という一言があった。私たちの仕事は患者さんのマインドを変えて、診療室以外の私たちのいない実生活空間でしっかりとケアを実践していただくことであり、小手先の技術を提供することではないことを再確認した。

今回学んだことの多くは、細分化するとその一つ一つは非常にシンプルで、医療人として、そして科学者として、そして一人の人間の立場として斬新なものではなく、実は当たり前前の事であったのではないかと感じる。それぞれの当たり前を一つずつしっかりと吟味、収集し、いかに積み上げ、作り上げることが重要かを教えられた気がした。

これから当分の間、まずは自分の脳を再度治療するようにします！

gut feeling も大事にしながら。

ありがとうございました。